

社会教育



大玉村立大山小学校の取組
そば打ち体験（5年総合）・和楽器体験（6年音楽）

CONTENTS

- ◆ 特集 1
「DX時代に対応した情報発信」
～社会に開かれた情報発信を目指して～
- ◆ 論説 3
「これからの学校・家庭・地域の協働・連携」
文科省CSマイスター 安齋 宏之 氏
- ◆ 輝け社会教育 4
福島市中央学習センター
相馬市中央公民館
喜多方市慶徳公民館
大玉村地域学校協働本部（おおたま学園CS）
新地町立駒ヶ嶺小学校父母と教師の会
白河市立東北中学校PTA
二本松市立二本松図書館
石川読み聞かせの会
- ◆ 人 こ え か お こ ろ 8
福島県地域学校協働本部事業評価検証委員会会長 星 尚子 氏
西会津町家庭教育相談室「心のオアシス」
紫藤 真理子氏 ・ 星 佳子 氏
- ◆ 令和4年度社会教育関係各種受賞者
令和5年度福島県社会教育施設行事予定 9



地域学校協働活動

本県でも平成19年度にスタートした「学校支援地域本部事業」。地域の様々な方の力を借りて学校の教育活動を豊かにする「学校応援団！」の取組は、平成29年度から「地域学校協働活動事業」に深化しました。従来の「地域と共にある学校」づくりを地域が応援するだけでなく、その活動を通して「学校を核とした地域づくり」につなげていこうとするもので、学校と地域の協働が相乗効果をあげることで、子どもを取り巻くすべての環境（地域全体）が、子どもたちにとって「温かな居場所」で「豊かな学びの場」になっていくことを目指しています。



2019年末に海外で新型コロナウイルスの感染が初めて確認されると、わずか数ヶ月でパンデミックを引き起こし、その猛威が世界中を震撼させました。学校の臨時休校、緊急事態宣言、東京オリンピックの延期など、私たちの生活は一変し、3密を避けた「新しい生活様式」を強いられました。

コロナ禍で、デジタル化の遅れと必要性が明らかとなりましたが、一方で、オンラインの活用による働き方や学び方の新たな形が生まれるなど、新たな手法も獲得しました。

あれから3年が経過し、時代は次の段階に移行しようとしています。DX(デジタルトランスフォーメーション)時代、超スマート社会(Society5.0)の実現に向け、教育現場(学校・行政)でも急速なデジタル化が求められています。社会的・現代的課題の解決を目指す「社会教育」においても、新時代の課題に対応するため、まずは私たち(社会教育課)が、実践を通してその効果と課題を検証し、目指すべき方向性を探ろうと取り組んできた3年間のチャレンジについて、ご紹介します。

社会教育課の取組の経緯

※ 2020年に「学びを止めない」ためスタートした取組は、その後、SNSなど時代のニーズに対応できる「多様かつ効果的な情報発信」に取り組んできました。

2020年

Zoom会議、Forms調査
YouTube開設・Live配信

オンライン会議
表彰式ライブ配信
Web申込・アンケート

ZoomやMeetによる
オンライン会議

Google Formsによる
Webフォーム活用

2021年

Twitter開設・発信
YouTube限定・一般公開

十七字作品紹介
イベント広報・参加者募集
オンデマンド配信

Twitterによる周知拡大
SNS連携・広報

YouTubeによる多様な
オンデマンド配信

2022年

Instagram開設・発信
note・Blogger開設・発信

若者・女性層への発信
SEOでアクセス数の増加
効果的な周知・広報

Instagramによる
顧客拡大・画像配信

noteやBloggerによる
SEO対策・効果的広報

メディア・SNSの特性に応じた発信・広報効果の向上

※ 各メディアの特性を生かし相互に連携した広報により、多くの世代に周知拡大を図りました。

* 社会に開かれた情報発信 *

社会教育の総合情報サイトを目指して

社会教育課Webサイト・SNS開設・運営

DX時代に対応した情報発信



2021.10~

★事業の参加者募集…Twitterカードでwebサイトへ誘導、拡散

- 「17字のふれあい作品紹介」
- 「社会教育東北大会」参加募集 ⇒ Bloggerに誘導
- 「ピプリオバトル(県・地区大会)」参加募集 ⇒ webサイトに誘導
- 「地域学校協働活動フォーラム」事業の広報 ⇒ Formsで参加申込



2020.12~

★事業の広報、好きな時間・場所で…事業内容を詳細に伝える

- 「家庭教育支援者全県研修」
- 「発達段階に応じた読書支援者研修」
- 「ピプリオバトル(県大会・地区大会)」
- 「17字のふれあい表彰式」
- 「ふくしまの未来成果発表会」
- 「社会教育東北大会 分科会」

各メディアの特性に応じた活用と
相互連携でwebサイトを補完



2022.10~

★有用情報を集約…まとめ記事・マガジンで情報を共有

- ❖ 「17字のふれあい表彰式(YouTube付)」
- ❖ 「17字のふれあい作品集(Instagram付)」
- ❖ 「ピプリオバトル(県大会)(YouTube付)」
- ❖ 「地域学校協働活動 文科大臣表彰(市町村事例紹介)」
- ❖ 「各教育事務所の実践(読書活動研修・家庭教育研修など)」



2020.6~

2022.9~



多様なメディアの効果の検証

- ◆ **Twitter** … 広報したい web サイトを **Twitter カード**として貼り付け、**web サイトに誘導**することで**間接的SEO対策**（ネット検索で上位に表示させる施策）となり**大幅なアクセス増**につながった。
- ◆ **YouTube** … 「ビブリオバトル」や「17字の作品発表」「未来の成果発表会」等、**イメージが伝えにくい事業**を**動画配信**することで、**事業理解**と**参加者拡大**を図った。10月にいわき市で開催した「**社会教育東北大会**」は、**参集・オンライン・オンデマンド(全分科会 YouTube 限定配信)**のハイフレックス方式で実施。
- ◆ **Blogger** … 上記「**社会教育東北大会**」の広報用 web サイトを作成。SEO対策と詳細なアクセス分析と改善により**最大想定の1.5倍の参加**を得た。
- ◆ **Instagram** … **若い世代や女性**に向けて発信を試みたが、特性をよく理解できず十分な活用ができなかった。
- ◆ **note** … **ブログ形式の簡単操作**で発信でき、様々な市町村等の取組や有益な情報を、内容・分野ごとに**まとめる**ことができる「**マガジン機能**」が便利。上記 **YouTube 動画を埋込んだ記事**で**アクセスも大幅増**に。**コメント機能**で閲覧者から随時質問を受けられるなど**双方向のやり取り**もできる。その他、ページ自体の信頼性が高く**SEO対策なしで検索上位**に表示され、note から**SNSへの拡散**も可能。

noteによる「社会教育総合情報サイト」を目指して

※ 今後は、**web サイト**とあわせて **Twitter** や **YouTube** での配信を継続しながら、**note** により**各市町村の実践事例を集約**し、**県内の公民館を「つなぐ」**こと（マガジン化）を目指しています。

例）「地域学校協働活動とCS」「読書活動」「家庭教育」等の参考（先進）事例をまとめる。

県内の各市町村や公民館（中核市も含む）の実践事例を記事としてまとめる。

⇒ **社会教育の情報が欲しいとき、あちこち「検索」して悩む前に、まずは「社会教育課 note」を見てみよう！**という**社会教育の総合情報サイト**を目指します。

※ 社会教育課 note は、こちら ⇒ https://note.com/social_fukushima/



社会教育課 note ～ 社会に開かれた情報発信

社会教育の**総合情報サイト**を目指して

「マガジン」機能を使い、私たちの**実践事例**や**県内の様々な取組**、他県の**効果的取組**など、**事業ごとに有用な情報をまとめた総合サイト**に！





これからの学校・家庭・地域の協働・連携

～価値ある目標の共有を通して～

文部科学省 総合教育政策局 CS マイスター 安齋 宏之 氏
(ふくしま学校と地域の未来研究所代表)



「地域とともにある学校づくり」を目指すツールであるコミュニティ・スクール(以下CS)は、平成4年度全国で15,221校(42.9%)に導入され、「学校を核とした地域づくり」のツールである地域学校協働活動は、全国の20,568校(57.9%)をカバーするまで整備されてきた。これらのデータは、CSと地域学校協働活動の一体的推進が図られ、学校・家庭・地域の協働・連携が進んでいることの現れでもある。CSと地域学校協働活動は、これまでの導入を目指す取組(第1ステージ)から充実を目指す取組(第2ステージ)へ軸足を変える転換期に来ている。

そこで、新たなステージに移行するときだからこそ確認したいことがある。それは、「目標の共有」である。学校運営協議会は、本来、教育目標等の実現や学校課題の解決のために、保護者や地域住民等が委員として参画し、学校運営の在り方やその支援の方策について協議する機関である。したがって、当然のことながら、課題や目標の共有が図られているはずなのだが、実態はそうでない場合が意外と多い。特に、教育目標については、これまで保護者や地域住民が教育目標作成のプロセスに関与する機会が少なかったこともあり、教育目標に対する関心が薄く、「目標の共有」につながらないばかりか、当事者意識や参画意識の醸成にもつながらなかった。

共有すべき目標は、教育目標に限るものではないが、大切なのは、その作り方である。

熟議などを通じ、保護者や地域住民(時には児童生徒)の思いや願いを取り入れ、作成のプロセ

スも共有しながら「ともに創る」ことが大切であり、そのようにして創られた目標は、「価値ある目標」として共有され、Mission(使命・役割)とPassion(情熱・意欲)を生み出す。また、その取組のゴールである未来の姿さえもイメージさせてくれる。地域学校協働活動においても、この「目標の共有」は重要であり、学校と地域がパートナーとして協働・連携するためには欠かせない。

「VUCAの時代」(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の時代)とも言われる今日、子どもたちの夢や志を育み、たくましく生き抜く力を身につけていくことは、私たちすべての大人の責務である。CSや地域学校協働活動の理念が、単なる理念にとどまらず、実効性のある取組にするためにも、「価値ある目標の共有」が図られているかを、今一度、県内すべての学校・地域で確認していただきたい。

プロフィール 安齋 宏之 氏

- ◇ 昭和60年 福島大学教育学部卒
- ◇ 平成20年 大玉村教育委員会 指導主事
- ◇ 平成22年～ 大玉村立大山小学校長・田村市立緑小学校長・本宮市立五百川小学校長・本宮市立本宮まゆみ小学校長を歴任
- ◇ 現在 ふくしま学校と地域の未来研究所代表 安達北郷総鎮守八幡神社宮司

● CSに関する役職

- ・平成25年～文部科学省CSマイスター
- ・平成26年 文部科学省CS推進等に関する調査協力者会議委員
- ・令和3年 文部科学省CSの在り方等に関する検討会議委員

第75回優良公民館文部科学大臣表彰

福島市中央学習センター

福島市中央学習センターは、福島県福島市の中心部に位置し、JR福島駅から東へ約2km、同一敷地内に図書館があり複合的教育文化活動の中心地です。区域住民の生涯学習活動の場であるとともに、市の中核館として地区学習センターと連携を図りながら全市民を対象とする事業の実施を通じて持続可能な地域づくりに努めています。

1 シャクナゲ青年講座

特別支援学校や特別支援学級を卒業した知的障がい者を対象に、余暇の有効活用や豊かな生活体験、交流の機会を提供し、社会参加や自立を支援することを目的に昭和44年から実施しています。

運営については、受講生や保護者の意見を取り入れながら、生活教養レクリエーション、造形表現といった活動を、関係団体等と協力しながら行っています。



2 ふくしまマスタース大学

市民を対象に、生涯学習の意識高揚を図り、生きがいと学びのきっかけづくりの契機とすべく著名な講師による講演会を実施しています。

その中で、聴講者が自主的に同期生会等の組織を立ち上げ、講演会の運営協力、教養・体験学習、地域づくりなど会員同士で交流を図りつつ活動しており、地域社会への積極的な還元が図られています。



3 中央学習センターが目指すもの

新型コロナウイルス感染症の影響下においても「学びを止めない」ために、You Tubeを使った動画講座やInstagram等での活動紹介を通じて、地域と人とのつながりを、さらには、地元の大学生や高校生と協力しながら、若年層の課題解決に向けた講座を企画立案、実施していくことにより次代を担う人材の発掘育成を通じて生涯学習、さらには地域社会の発展に努めていきます。

第75回優良公民館文部科学大臣表彰

相馬市中央公民館

相馬市中央公民館は市街地にあり、市内に9つある公民館の中核業務を担っています。

子どもから成人、高齢者の新たな学びの機会をつくり、地域住民の生涯の宝づくりを目的に様々な事業を展開しています。

1 公民館と学校の連携

新型コロナウイルス感染拡大により、学校行事等の規模縮小や中止の状況が続きます。そこで、子どもたちを笑顔にしたいという思いから、「バームクーヘン作り」等の体験活動や算数の授業「折り紙で作る三角定規」等の学校支援を、公民館と学校の連携による『わくわく出前講座』として実施しています。



2 多様なニーズに応える『特別企画講座』

コロナ禍でも「今できることを！」と、参加人数等を考慮した小規模で実施できる講座を数多く企画するとともに、幅広い年代の地域住民の公民館事業への関心を高めようと、『特別企画講座』を開催しています。親子による「陶芸教室」、「ピザ教室」、「星空教室」や先人の生きる知恵を学ぶ「相馬報徳講座」、「柿の渋抜き講座」、学び合いと交流ができる「バリスタ講座」等多様なニーズに応えた講座があります。

3 今後の取組

人生100年時代を迎え、地域住民と共に在り続ける公民館を目指すために、今後も「仲間づくり」「生きがいづくり」「健康づくり」につながる公民館事業推進に挑み続けてまいります。



第75回優良公民館文部科学大臣表彰

喜多方市慶徳公民館

喜多方市慶徳地区は、歴史的建造物や伝統文化が数多く存在する水田と畑作中心の農村地帯です。当公民館は、伝統的な木造建築技術を活かし平成18年に建設されました。当地区でも少子高齢化の影響を受け歴史的建造物の維持管理や伝統文化の継承が課題となっています。

そのような中、当公民館では「学校で学び 地域で育つ 慶徳の子」をキャッチフレーズとし、慶徳小学校との地域連携・協働に重点を置いた事業についてご紹介します。

1 慶徳御田植祭・早乙女踊り

毎年半夏生の7月2日に稲荷神社御田植祭が実施されます。早乙女踊りが衰退する中、小学校、保存会とも連携し生涯学習推進特別事業として伝統文化を継承しています。



2 慶徳！スポーツアカデミー運動教室

子どもが心身共に健康でスポーツに親しむ機会の拡充を目的としています。陸上競技を中心にゲーム的な要素も取り入れながら、運動が苦手な子ども得意な子どもレベルに応じて基礎から学べる内容になっています。

3 地域の文化財巡り

当地区内の文化財を訪ね、公民館長及び関係者からの説明を受ける「ふるさと再発見課外授業」を実施しています。



これからも公民館の機能である「つどう・まなぶ・むすぶ」を大切にしながら、地域に根ざし活性化の一助となるように、社会教育の充実発展に努めていきたいと思ひます。

令和4年度CSと地域学校協働活動の一体的推進文部科学大臣表彰

大玉地域学校協働本部（おおたま学園コミュニティ・スクール）

この度は栄えある文部科学大臣表彰を賜り誠にありがとうございます。今回の受賞を励みに、コミュニティ・スクール委員をはじめ、地域支援ボランティア、関係諸団体すべてが今後一層活動に力を入れていきたいと思ひます。

本村のコミュニティ・スクール委員会は、平成23年4月、震災の年に発足し、現在まで学校の課題等について熟議を重ね、委員すべてが学校運営協議会委員（学校関係者評価）も兼ねるなど、学校運営に重要な役割を果たしてきました。

また、地域学校協働本部では、平成21年度に学校支援・放課後子ども教室がスタート。県のモデル地区受託をきっかけに平成29年度から連携・協働、学習支援、



家庭教育支援を新たに取り入れ、学校・地域・家庭を架け橋として様々な事業を展開しています。

活動の一つとして、おおたま学園（学校行事）で行われている「おおたま・オータム・フェスタ」があります。村内の幼稚園児・小学生、中学生が「登山」や「オリエンテーリング」、「ミニ運動会」「昔遊び」など異学年で交流しています。この事業の良さや強みは、小学生の時に中学生に助けてもらった思いを忘れずに、逆の立場になった時に優しく接することができる、そんな思いやりのある子がたくさん育っていることです。

今後も活動を充実させ、未来を担う大玉の子どもたちを支え、育てていきたいと考えています。



令和4年度優良PTA文部科学大臣表彰

新地町立駒ヶ嶺小学校父母と教師の会

創立150周年を迎えた本校にとりまして、このような栄えある賞に選出いただき大変光栄に思っております。この快挙はPTA会員の皆様を始め、長年にわたり本校の教育活動を支えてくださった方々の功績が認められた結果であり、改めて感謝申し上げます。



本校の教育目標実現のため、支えとなっている活動の1つが歴代PTA会長会による「大銀杏賞」です。

児童の善行を称える目的で、地域の象徴でもある「白幡のいちょう」にちなんで制定されたものです。賞に値する行いができた児童には、各学期末に賞状とメダルが授与されます。

歴史と名誉あるこの賞は、児童の自己肯定感や愛校心の高まり、よさを認め合

える心の育成に寄与しています。PTAの任期後もなお、児童の健やかな成長を願った後援は、本校ならではのよき伝統であると考えております。コロナ禍においては、教育活動が縮小せざるを得ない状況になり、PTA会長を中心に、保護者、地域の方々と連携し、「今できる最高の形」を模索しながら柔軟に対応してきました。「駒小まつり」「植花活動」などの行事やPTA各専門委員会の活動も変化しています。今後も協力体制を維持し、児童の笑顔のため、取組を推進していきたいと思っております。



令和4年度優良PTA文部科学大臣表彰

白河市立東北中学校PTA

「先生、こっちの草も刈っていいがい？」と言いながら、保護者の方々が、あっという間に校舎脇の斜面の草を刈ってくれました。これは、PTA奉仕作業の一コマです。

今年度、本校が栄えある「優良PTA文部科学大臣表彰」をいただくことができたのは、長年に渡る学校への保護者や地域の方々からの理解と惜しみない協力のおかげであると思っております。

本校のPTA活動の特徴の一つは、「PTA行事への高い参加意識」です。コロナ禍の中でのPTA総会、授業参観、学年保護者会の開催や夜間の各専門委員会の活動は、共に90%を越える出席率です。

また、本部役員は、2年に1回、学校のシンボルでもある、校庭脇の斜面にある大文字「TOHOKU」のペンキ塗り替え作業を行うのが伝統となっています。



二つめの大きな特徴は、「地域とPTAが一体となった活動」です。その一つとして、この地域には「安珍歌念仏踊り」という昔から伝わ

る地域伝統芸能があります。生徒は、伝統芸能を継承している保存会の方々の指導とPTAの協力を受けながら、10月の文化祭や3月末の安珍供養祭で念仏踊りを披露しています。この活動を通して、地域の文化を知り、地域を愛することができ、生徒の育成が図られています。



今後も学校・家庭・地域が三位一体となり、生徒が成長できるよう支援、応援して参ります。

令和4年度子供の読書活動優秀実践校・図書館文部科学大臣表彰

二本松市立二本松図書館

二本松市は、福島市と郡山市の中間に位置し、安達地方の中心都市となっており、人口は52,000人ほどの地方都市です。

本市は、二本松市立二本松図書館と岩代図書館2つの図書館を有しており、両図書館とも市民に広く活用されています。

二本松図書館の特色として、子どもの読書推進に力を入れており、乳幼児を対象としたおはなし会を定期的に行い、夏と冬には「としょかんまつり」を開催し、子どもはもちろん家族も含めて楽しんでいただくイベントを行い、気軽に図書館へ足を運んでいただける事業を展開しています。



令和元年度からは、市内各小学校から1、2名の児童を推薦いただき、夏休み期間を利用して「子ども司書養成講座」を開催し、読書リーダーの養成を図っています。

当図書館では、移動図書館車の運行も行っており、主に各小中学校を巡回し、児童・生徒の読書に親しむ機会を提供しています。

このような取り組みが評価され、令和4年4月に子供の読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受彰いたしました。



これからも、子どもの読書推進はもとより、更なる図書館利用向上に努めてまいりたいと思っています。

令和4年度子供の読書活動優秀実践校・図書館文部科学大臣表彰

石川読み聞かせの会

「石川読み聞かせの会」は、平成10年に子ども達に読書の楽しさ、言葉や創造の世界を広げ、豊かな心を育むことを目標に設立された24年の歴史と実績がある会です。会員は14名。小学校等からの要請は年々増え、町内の読書重視の姿勢が感じられます。

主な活動内容

- ① 町内各小学校の「朝読」
各教室で10分間の読み聞かせ。
今年度は2校、延べ115学級で実施しました。
- ② 「楽しいちっちゃな読み聞かせ」
町の図書館で月2回、30分間実施しています。
- ③ 町内2保育園での読み聞かせ(新規要請)
- ④ 放課後子ども教室への協力(年2回)



⑤ 「親子で楽しむ 読み聞かせ会」

本会のメインイベントで年1回の開催。17回目を迎え、大型絵本、人形劇、エプロンシアター、「琴による弾き語り」、指人形等多様な手法を取り入れています。

⑥ 会員の資料の開発・研修

人形や衣装、脚本、小道具等は手作りし、会員一人一人が特技や経験を活かしています。



石川町の伝説も紙芝居化し、現在、会員同士和気あいあいと新しい人形劇制作に取り組んでいます。

今後この荣誉ある受賞を励みに楽しくできる範囲で子ども達そして自分自身のためボランティア活動を続けていきたいと思っています。



社会教育功労者賞を受賞して

福島県地域学校協働本部事業 評価検証委員会会長

星 尚子 氏

この度の受賞は、今日まで社会教育活動に関わる中で出逢った様々な方々のご支援とご指導の賜と、感謝の気持ちでいっぱいです。社会教育の根底にある人と人との繋がりが、荣誉ある賞に結びついたものと思います。

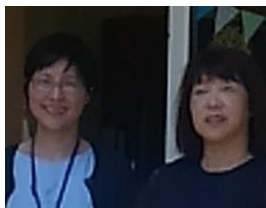
私のスタートは、南会津地域で子育てに悩む親子とともに家庭教育を考えていこうとする仲間たちとの活動から始まりました。

親子、家庭で抱える課題は様々ですが、一緒に考えていくことで笑顔になっていく親子の姿は私たちの喜びであり、活動への意欲となっていました。

そんな中、東日本大震災以降に地域の復興・創生に取り組む社会教育活動に関わることで、その

役割の大きさに気づかされることとなりました。地域全体で想いを共有し、協働する姿は、今日私たちが抱える様々な課題を解決していくためのあり方そのものです。また、子どもたちの発想と意欲には目を見張るものがあります。それを私たち大人がしっかり受け止め、実現できる社会へと共に歩んでいかなければなりません。

社会の有り様も急激に多様化する時代ですが、人間が本来持っている「生きる喜び」に結びつく要素が社会教育の中にはたくさん存在しています。そんな大きな社会教育の中で生きる一人の地域住民として、今後も自分の役割を見つけて行動していきたいと考えます。



福島県家庭教育支援チームの紹介

西会津町家庭教育支援チーム「こころのオアシス」

家庭教育コーディネーター兼教育相談員 紫藤 真理子 氏(写真右)

家庭教育支援員 星 佳子 氏(写真左)

小学校内に常設されている相談室「こころのオアシス」。迎えにきた保護者や休み時間の子どもたちなどが気軽に立ち寄れる場所です。カフェスペースを設ける等、相談しやすい雰囲気を演出しています。お茶を飲みながら色々なことを話すうちに、必要な支援に結びついたケースもありました。

毎年11月頃に開催される「西会津ふるさとまつり」に、親子フリーマーケットを出店し、親子が交流したりする場を設けながら、こころのオアシスの活動について周知を図っています。



企業内学習会

家庭教育支援に積極的に取り組もうとしている町内の企業を訪問し、社員の皆様を対象とした家庭教育に関する学習会を開催しています。

企業全体で家庭教育の現状と必要な支援等について理解していただくことで、「働きやすい職場」づくりと、社員相互の理解促進を目指しています。





令和4年度社会教育関係各種受賞者 令和5年度福島県社会教育施設行事予定

| 表彰区分 | 被表彰者氏名・被表彰団体名 | 受賞月日 | 表彰者 |
|----------------------------|--|--------|-------------------------------------|
| 社会教育功労者 | 星 尚子 氏 (福島県地域学校協働本部事業 評価検証委員会会長) 佐藤 富子 氏 (国見町社会教育委員副議長) | 11月2日 | 文部科学大臣 |
| 優良公民館 | 福島市中央学習センター (県北) 相馬市中央公民館 (相双) 喜多方市慶徳公民館 (会津) | 2月3日 | |
| コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進 | 大玉村地域学校協働本部 (おおたま学園CS) | 2月3日 | |
| 優良PTA | 新地町立駒ヶ嶺小学校父母と教師の会 (相双) 白河市立東北中学校PTA (県南) | 11月18日 | |
| 子供の読書活動優秀実践図書館・団体(個人) | 【図書館】二本松市立二本松図書館 (県北) 【団体】石川読み聞かせの会 (県中) | 4月23日 | |
| 福島県青少年健全育成条例に基づく表彰 | 【青少年育成者】 佐藤 純子 氏 (福島市) 五十嵐 秀夫 氏 (郡山市) 安部 洋子 氏 (郡山市) 國井 久年 氏 (白河市) 物江 智 氏 (会津若松市) 高山 克男 氏 (相馬市) 稲田 幹夫 氏 (いわき市) 石川 四郎 氏 (いわき市) 【青少年育成団体】 平野地区青少年健全育成推進会 (福島市) 二本松地区少年警察ボランティア協会 (二本松市) 伊達市レクリエーション協会 | 11月18日 | 福島県知事 |
| 社会教育功労者 | いわき市社会教育委員の会議 議長 神山 敬章 氏 西郷村社会教育委員長 花安 紀夫 氏 | 11月1日 | 福島県教育委員会 |
| 功績顕著な団体・施設 | 【団体】読み聞かせ会「あのね」(古殿町) 須賀川市立西袋第一小学校教育活動後援会 郡山市立安積中学校父母と教師の会 南会津町立南郷小学校父母と教師の会 【施設】南会津町中央公民館 会津若松市大戸公民館 郡山市立富田東地域公民館 | 11月1日 | |
| 全国社会教育委員連合 | 阿部 君江 氏 (小野町) 橋場 八代子 氏 (西郷村) | 10月27日 | (社) 全国社会教育委員連合会長 (社) 日本PTA全国協議会長 |
| 日本PTA全国協議会 | 【団体】本宮市立本宮まゆみ小学校PTA いわき市立錦小学校PTA 【個人】前福島県PTA連合会副会長 齋藤 友則 氏 前福島県PTA連合会副会長 齋藤 敏浩 氏 前福島県PTA連合会副会長 宗像 真人 氏 | 11月18日 | |
| 東北地区社会教育委員連絡協議会 | 木暮 照正 氏 (福島市) 岡崎 忠一 氏 (桑折町) 横田 貞子 氏 (小野町) 花安 紀夫 氏 (西郷村) 川邊 征四郎 氏 (矢吹町) 関根 陽子 氏 (棚倉町) 山本 純 氏 (棚倉町) 星 美法 氏 (猪苗代町) 山崎 三枝子 氏 (喜多方市) 福田 邦子 氏 (会津美里町) 長沼 常雅 氏 (下郷町) 浜田 貞子 氏 (双葉町) | 10月13日 | 東北地区社会教育委員連絡協議会長 |
| 東北地区子ども会育成連絡協議会 | 【指導者の部】子安 正勝 氏 (福島市) 鈴木 純子 氏 (いわき市) 【育成者の部】湯田 典子 氏 (会津若松市) | 12月17日 | 東北地区子ども会育成連絡協議会長 |

| 福島県立図書館 | 福島県立美術館 | 福島県立博物館 | 福島県自然の家 |
|--|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○「福島を生きる」連続講座と関連展示 ○「福島県文化財センター白河館(まほろん)移動展示」 6/2(金)～7/5(水) ○「福島イノベーション・コースト構想展示」 7/7(金)～8/2(水) ○「福島県歴史資料館移動展示」 10/6(金)～11/1(水) | <ul style="list-style-type: none"> ○美(み)をつくしー大阪市立美術館コレクション 3/21(火・祝)～5/21(日) ○特集展示：眼にうつる詩 5/30(火)～6/18(日) ○プルトーニウムの光と風～モネ、ゴッーヤン、ボナール～遙かなる理想郷～ 7/1(土)～8/27(日) ○「少女たち」星野画廊名品展 9/23(土・祝)～11/12(日) ○現代版画の小宇宙 金子コレクションから 11/21(火)～12/27(水) ○福島アートアニュアル2024 2/3(土)～3/3(日) ○美人画の雪月花 増広庵コレクション展(仮) 3/23(土)～5/12(日) | <ul style="list-style-type: none"> ○Go!Go!5世紀～東北地方中・南部の古墳文化 4/29(土)～7/2(日) ○仕事の仕事をしている仕事 福島 ものづくりと民藝 7/15(土)～9/24(日) ○伝える 災害の記憶 10/7(土)～12/17(日) | <ul style="list-style-type: none"> ○郡山自然の家 春のオープンデー 5/28(日) ○会津自然の家 はじめてキャンブ 5/20(土)～5/21(日) ○いわき海浜自然の家 春のオープンデー 5/28(日) |

編集後記

社会課題と経済発展を解決する超スマート社会(Society5.0)の実現に向け、「DX」や「GIGAスクール構想」など、教育現場(学校・行政)でも急速なデジタル化が求められています。新時代を生きる子どもたちに「必要な力」を育むため、また、社会的・現代的課題の解決のため、私たち社会教育関係者も、実践を通してその効果と課題を検証し、目指すべき方向性を探っていく必要があると考えます。そして何より、困難な(苦手な)課題に立ち向かっていく姿勢こそが、これからの教育に求められるものであり、従来の枠にとらわれない様々なチャレンジを通して、新時代に対応する社会教育の在り方を探っていきたいと考えています。

令和5年3月20日発行

社会教育 No. 343

編集 社会教育課

発行 福島県教育委員会

福島市杉妻町 2-16